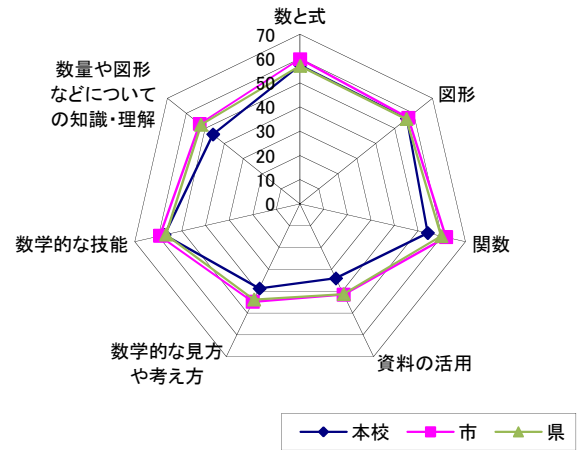


宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.2	59.8	57.0
	図形	56.4	57.1	56.1
	関数	54.1	61.8	59.8
	資料の活用	34.1	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	38.8	44.9	43.9
	数学的な技能	57.4	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	46.0	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	県と比べて本校の正答率は57.2%であり、0.2ポイント上回っている。 ○一次方程式では、係数に小数を含む方程式でも、県と市の平均を上回り正答率が高い。 ●正負の数の四則計算において正答率が低く理解が不十分である。	理解した学習内容を繰り返し復習したり、演習したりする学習時間の不足が考えられるため、家庭学習用のプリントを用意し計算力を高めていきたい。
図形	県と比べて本校の正答率は56.4%であり、0.3ポイント上回っている。 ○作図や面積を求める問題では、正答率が高くおおむね理解していると考えられる。 ●直方体において、辺と平行な面を選んだり、移動について説明したりする問題で正答率が低い。	授業の中で用語の確認などを行い、基礎基本の定着を図っていききたい。また、学び合い学習を取り入れることで、説明する能力を高めていききたい。 さらに、図形の移動に関する部分で重点的学習を図りたい。
関数	県と比べて本校の正答率は54.1%であり、5.7ポイント下回っている。 ○比例や反比例の基礎については正答率が70%～80%で、おおむね理解していると考えられる。 ●数量の関係から妹のグラフを選ぶ問題で正答率が低い。	座標を読み取ったり、点の座標を書いたりする問題を多く解く機会を設け、グラフをかくために必要な基本的な力を身につけさせたい。 身近な関数を取り上げて考えさせたり、座標やグラフは、パズル感覚で取り組める演習等を行ったりして、学習意欲の喚起につなげていきたい。
資料の活用	県と比べて本校の正答率は34.1%であり、7.3ポイント下回っている。 ○度数分布表については正答率が88.9%で、理解度が高く、高い数値を表している。 ●最頻値を求めたり、階級値を求めたりする問題では、正答率が県の平均を大幅に下回っている。	生徒が興味を持ちそうな資料で、度数分布表を作成したり、ヒストグラムをかいて平均値や中央値、最頻値を求めることで、活用能力を高めていきたい。 情報化が進展し、パソコンを利用した「資料の活用」の指導も取り入れていきたい。